

教育研究所だより



令和4年3月22日 NO.94

令和4年2月15日（火） オンライン開催

栗東市教育研究発表大会



2月15日（火）に、第19回栗東市教育研究発表大会を開催しました。オンラインでの開催になりましたが、2年ぶりに開催することとなりました。

開会行事では、主催者を代表して、福原快俊教育長から開会のあいさつがありました。教育長より、今年度の教育奨励事業において、たくさんの先生方からの教育実践が寄せられたことについて、各校園の保育教育に対する熱意や意欲への賞賛と激励がありました。

教育研究奨励事業 全体講評

<講師> 滋賀大学教職大学院 准教授 白石 牧恵 氏



本事業のスーパーバイザーとして、1年を通してご指導いただいた白石先生より、研究奨励論文についての全体講評をいただきました。「具体性」「客観性」「広がり」「つながり」の4つの視点に沿って、応募者の先生方の研究論文から事例を挙げながらお話をいただきました。

【参加者からの声】

研究論文から見える意図、成果、さらに取り組んでいくべき視点についてわかりやすくご説明いただき、研究のまとめをする際に大変参考になりました。

具体的な子どもの姿から客観性をもって自分の授業をみつめたり、子どもの変容をとらえたりしながら日々の実践を積み重ねていくことの大事さを改めて感じました。

『LGBTsの児童生徒の存在を認識した学校での取り組み』

<講師> 宝塚大学看護学部 教授 日高 庸晴 氏



データに基づく資料を通して、LGBTsに関する現状や学校に求められている課題についてわかりやすくご教示いただきました。性的指向や性自認、LGBTsの児童生徒の存在を視野に入れて、より一層、教育現場で取り組んでいかなければならぬことについて学ぶことができた教育講演会となりました。



【参加者からの声】

LGBTsについて理解しているか、していないだけでなく、まずは「人を傷つけない・尊重する」ということを大前提に子どもたちと関わっていきたいと思います。

教師の思い込みや認識不足からの一言が、悩んでいる子どもを傷つけ、追い込んでしまうかもしれないということを常に心にとめ、自分自身が子どもにとって安心できる存在になれるように努めていきたいと思います。

調査研究『通常の学級と通級指導教室の学びをつなぐ実践 ～「子どもの学びをつなぐ」「教師がつながる」視点から～』 ＜教育研究所 研究員＞ 松田 愛



【調査研究の報告】

栗東市では、「第Ⅱ期栗東市特別支援教育推進計画」が定められ、特別支援教育のより一層の充実を進めています。

本研究では、通常の学級と通級指導教室の指導の連続性に焦点を当て、通級による指導の指導内容を通常の学級での授業や生活に生かしていくことで、通級による指導を受ける児童生徒の学びをつなげていくための担当者間の連携の在り方を提案していきます。1年次の研究では、担当者間の連携の実態と課題を明らかにしました。

1年次の研究の方法

◎学級担任と通級担当者の連携の実態と課題を明らかにするために…

【調査Ⅰ】
教職員への
質問紙調査



【調査Ⅱ】
通級担当者への
面接調査



◎通級による指導の現状を把握するために…

【調査Ⅲ】通級指導教室の参観
市内通級担当者会の参観

調査Ⅰ：栗東市内教職員への質問紙調査

1 調査の内容

学級担任と通級担当者の連携の実態と課題を明らかにすることを目的として、質問紙調査を実施しました。

2 結果および考察

質問紙調査では、204名（回収率 47.7%）の教職員から、以下のような回答が得られました。

(1) 通級指導教室の授業参観の経験の有無について

小学校では約3割、中学校では約7割が参観の経験がなく、特に中学校において、参観の経験がない教職員が多いことが分かりました。市内の中学校においては、平成29年度に通級による指導が開始されてから今年度で5年目であるため、今後、通級指導教室への理解がますます進んでいくものと期待されます。

(2) 通級による指導を受ける児童生徒（対象児）の担任経験の有無について

204名の教職員のうち、全体の約7割が担任の経験があり、今年度担任していると回答したのは54名でした。

(3) 学級担任と通級担当者の連携について

①通級指導教室の学習内容の決定について

通級指導教室の学習内容は、通級担当者のみで決定しているという回答が最も多くを占めました。通級指導教室での学びを通常の学級での生活や授業に生かすためには、学級担任がその学習内容や対象児の様子を把握し、通常の学級で生かすという視点をもって通級担当者と連携を図る必要があります。通級指導教室の学習内容の決定に学級担任が積極的に関わったり、その内容を把握したりする視点をもつことが、今後の課題です。

②通級担当者との連携方法について

学級担任が、対象児について通級担当者と連携をとる方法として最も多かったのは、「直接会って話す」ことでした。その他には、紙面、電話などのツールを通して連携を図っていることも明らかになりました。業務多忙な中、学級

担任が通級担当者と直接会って話す時間の確保は、容易なことではないと推察されます。また、学級担任が、通級担当者と話す時間帯として最も多かったのは、「放課後」でした。つまり、小学校においては、通級担当者が指導を終えて職員室へ戻る17時以降が多く、中学校においては、部活動を終えた後の時間帯が多いことが明らかになりました。

③通級指導教室での学習内容を通常の学級で取り入れているかについて

約半数の学級担任が「取り入れている」と回答しました。「取り入れている」と回答した学級担任は、通級指導教室での学習で有効だった指導や支援の方法を通常の学級で同じように実践をしていることが分かりました（下図）。他にも、その指導方法を学級全体や学年全体の指導の中に取り入れたという例もありました。

「取り入れている」と回答した学級担任より



一方、「取り入れようとしたが、取り入れられなかった」「取り入れ方がよく分からない」と回答した学級担任も半数を占めました。その理由として最も多く挙げたのは、「通級指導教室での学習内容について、具体的に把握できていないため取り入れ方がよくわからない」という意見

でした。以上より、通級指導教室での学習内容を学級で取り入れているかどうかは、その学習内容を把握しているかが大きく関わっていることが考えられます。「通級指導教室での指導・支援の方法をもっと知りたい」「通級指導教室の授業を参観したい」という気持ちを持ちながらも、その機会や方法を模索している学級担任がたくさんいる現状が見出されました。



調査Ⅱ：通級担当者への面接調査

1 調査の内容

学級担任と通級担当者の連携の実態と課題を明らかにすることを目的として、通級担当者の面接調査を実施しました。

2 結果および考察

(1) 栗東市内通級指導教室の現状について

栗東市内の通級指導教室「ことばとまなびの教室」の5名の通級担当者は、2～3校の指導を担当し、30名を超える対象児の指導を行っています。学級担任との連携においては、なかなか学級担任と話す機会や時間がないという現状から、通信等のツールを活用している通級担当者もいました。特に、学級担任と直接会う機会がない他校通級の対象児の学級担任との連携について、今後、連携を支えるための方策が必要であると考えます。



調査Ⅰと調査Ⅱの結果より、学級担任と通級担当者の思いが分かりました。両者の思いを支えるための方策を検討し、2年次の研究へと進めていくこととしました。

調査Ⅲ：通級指導教室の参観&通級担当者会の参観

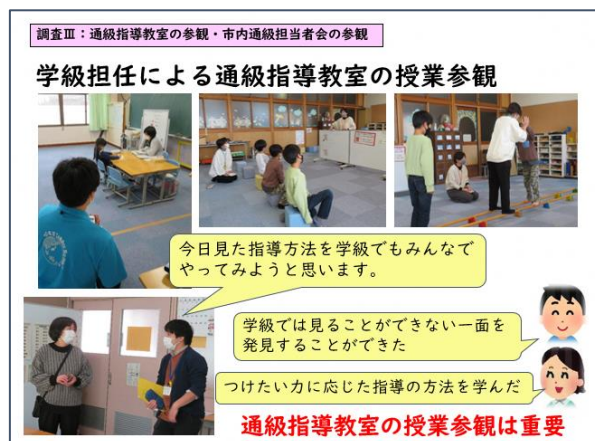
1 調査の内容

通級による指導の現状を把握することを目的として、通級指導教室の授業や市内の通級担当者会の参観をしました。

2 結果および考察

(1) 通級指導教室の授業参観を通して

実際に、通級による指導の場面を参観することで、通級指導教室での学習内容を、どのように通常の学級における生活面や学習面への指導へ活用したらよいかがイメージしやすくなるのではないかと考えます(下図)。



(2) 通級担当者間の連携

市内の通級担当者は、互いに実践を交流し、よりよい通級による指導のために研修を重ねています。その特別支援教育に関する専門性は、教育現場において重要な資源であり、担当者間がつながり合いながら、協働的に教育実践を積み上げていくことは教育に欠かせない姿勢であると考えます。

2年次の研究に向けて

調査を通して、市内の通級指導教室の関する現状と課題が見えてきました。2年次には、その課題を改善するための以下の方策を実践し、成果と課題を検証します。



最後になりますが、市内の教職員の皆様、質問紙調査へのご協力ありがとうございました。また、市内の通級担当者の皆様、熱心なご指導と温かいご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

教育研究奨励事業審査結果



学校園名	種別	氏 名	研 究 主 題	賞
葉山幼児園	共同研究	代表 伊勢純子	「こころのねっこを育てよう」 ～笑顔いっぱい、元気いっぱい、動かそう心と体～	奨励賞
大宝幼稚園	共同研究	代表 園田智美	心はずませ、主体的に遊ぶ子どもの育成をめざして ～自ら体を動かしたくなる環境や援助の工夫～	奨励賞
金勝小学校	個人	延命成弥	「多面的・多角的に捉え発想する力」の育成を目指す、図画工作科の指導の在り方	フレッシュ 大賞 優秀賞
葉山小学校	個人	佐藤誠也	主体的・対話的で深い学びにつながる「対話的な学び」の視点に立った授業づくり ～国語科における「子ども同士の協働」の充実～	優秀賞
葉山東小学校	個人	田中優希	誰もが安心して過ごすことのできる学級づくり ～友だちのよさや違いを認め合える学級経営を通して～	優秀賞
葉山東小学校	個人	松本義弘	振り返りの視点から見る算数の授業づくり ～いきいきと問題を解決し、学びを深める児童の育成を目指して～	優秀賞
葉山東小学校	個人	高橋 享	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実 ～Chromebookの活用～	奨励賞
治田小学校	個人	宇野理穂	ICTを活用した授業づくり ～体育科の学習を通して考えを表現しよう～	奨励賞
治田東小学校	個人	杉山紗綾	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくり ～国語科における学習課題の設定・一人読み・交流の工夫を通して～	奨励賞
治田西小学校	個人	野嶋宏史	ICTの活用が課題解決能力にもたらす効果の一考察 ～体育科における動作分析によるメタ認知への働きかけを通して～	最優秀賞
大宝小学校	個人	福井 駿	自分の力を発揮できる学級づくり ～「クラス会議」の実践を通して～	優秀賞
大宝東小学校	個人	丸山智則	一人一人が安心して意欲的に学習できる環境づくりと学級づくり ～自己有用感を高める取組を基盤として～	奨励賞
栗東中学校	個人	島元葵生	自己肯定感を高める学級経営 ～自己肯定感から主体的行動を引き出す～	奨励賞
栗東中学校	個人	桂田翔伍	ICTを活用した「学びに向かう力」の育成について ～数学科における基礎基本の定着から～	奨励賞
葉山中学校	個人	寺田恵理	「不適切な養育環境と不登校の関連性」 ～不登校児童事例にみる支援課題と展望～	優秀賞

来年度に向けて

今年度もコロナ禍の中での1年となりましたが、教育研究所の事業にご理解ご協力いただき誠にありがとうございました。教育研究奨励事業においては、保育教育活動が制限されることもあったかと思いますが、論文を読ませていただいていると、目の前の子どもをしっかりと見据え、課題解決に向け、創意工夫しながら、ご努力されたことが推察されます。素晴らしい実践をありがとうございました。

来年度におきましても、教育研究奨励事業や教職員研修、調査研究等を教育研究所の事業の中心として実施していきますが、各校園、関係機関の皆様のご支援をいただくことでさらに充実した取り組みにしていきたいと考えています。それぞれの事業に工夫を加えて、少しでも皆様のニーズに応えられるよう、努力していきたいと思ひます。

来年度におきましても、ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

1年間読んでくれて
ありがとう！



栗東市立教育研究所 〒520-3088 栗東市安養寺一丁目13-33 栗東市教育委員会事務局内
TEL 077-551-0130 ・ FAX 077-551-0149 E-mail kenkyusho@city.ritto.lg.jp